

快適に過ごせる生活基盤が整備されたまち

都市基盤の整備を推進するとともに、景観の調和やライフラインの整備、公共交通の更なる利便性の向上などにより、市民生活の快適性の確保を目指します。

快適に過ごせる生活基盤が整備されたまち

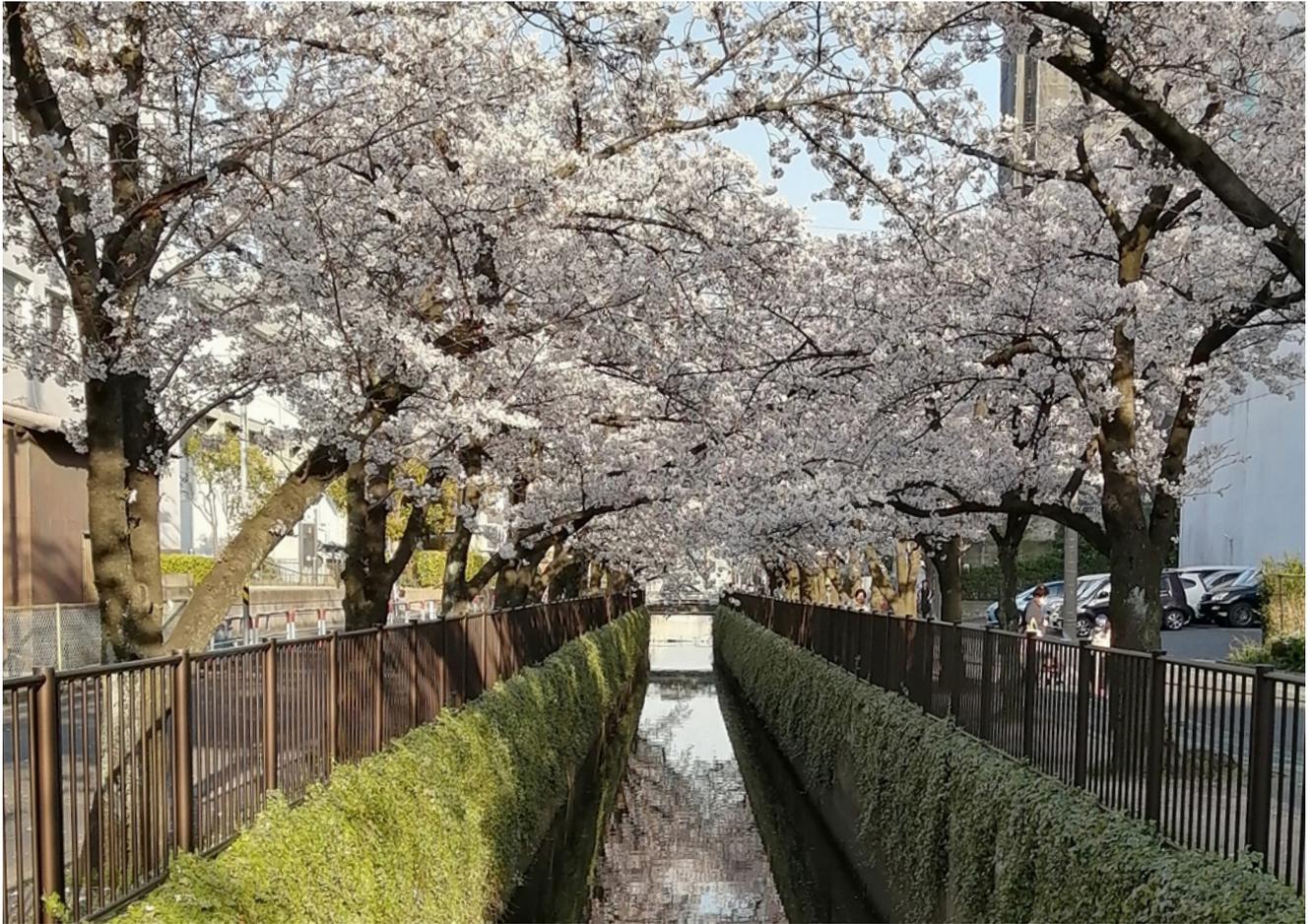
施策 21 快適で秩序ある美しい市街地の形成

施策 22 安心して生活できる住環境の充実

施策 23 上下水道事業の効率的な運営・施設の充実

施策 24 公共交通が利用しやすい環境の整備・推進





第10回戸田市フォトコンテスト優秀賞

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさも守ろう 	16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナーシップで目標を達成しよう 	

基本目標 V に該当するSDGsの目標は、背景色をカラーで示しています。



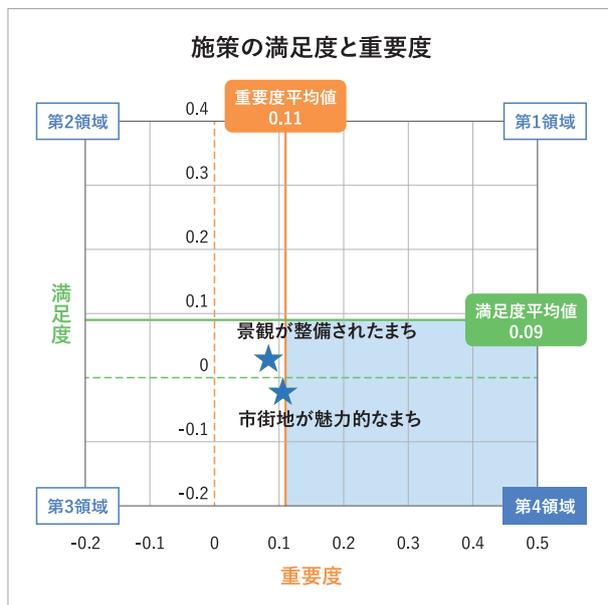
快適で秩序ある美しい市街地の形成

【施策の目的】

地域の特徴を活かした都市基盤整備を進めるとともに、地区計画[※]等の制度を活用した土地利用の規制・誘導を図ることにより、快適で秩序ある市街地の形成を目指します。また、戸田市の特徴を活かした美しい魅力的なまち並みの創出により、次世代につながる良好な景観の形成を目指します。

現況と課題

- 都市マスタープランに沿った都市基盤整備を計画的・継続的に推進するとともに、土地利用の動向や社会経済情勢の変化などにも適切に対応する必要があります。また、市街地の形成に当たっては、地区の特性を考慮するとともに、市全体の均衡ある発展に配慮する必要があります。
- JR埼京線の3駅（戸田公園駅・戸田駅・北戸田駅）周辺については、駅周辺にふさわしいまちづくりと土地利用が必要です。
- 少子高齢化・人口減少が進むなか、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の一部を改正する法律が平成31年（2019年）4月に施行され、バリアフリーの推進が求められています。各施設の管理者が協力しながら、バリアフリーの連続性を確保していく必要があります。
- 景観形成については、平成14年（2002年）に戸田市都市景観条例を施行し、平成21年（2009年）には戸田市景観計画を策定しました。その後、運用上の課題や社会情勢の変化などに対応し、引き続き良好な景観を創出するために、令和2年（2020年）に第2次戸田市景観計画を策定しました。これに基づき景観形成の目標である「季節とまちの息吹を感じる景観づくり」を実現するための様々な取り組みを推進しています。
- 市民のまちづくりに対する関心を高めながら、市民、事業者及び行政が目標等を共有し、理解と協力のもとで計画的・継続的に取り組んでいくことが大切です。
- 景観の形成には市民、事業者及び行政の協働が不可欠であるため、公共施設や大規模な民間施設整備に伴う協議にとどまらず、広く市民一人ひとりを景観形成の主体と捉え、自主的な取り組みを促していくことも重要です。





取り組みの方針

(1) 都市マスタープランの推進

- 事業の整備効果や波及効果を視覚的に分かるようにし、進捗が図られるよう各種事業計画の見直しを行います。さらに、都市マスタープランの検証を行い、結果に基づいた見直しを実施します。

(2) 市街地整備に向けた事業の推進

- ★ 新曽第一、新曽第二地区の土地区画整理事業^{*}や新曽中央地区整備事業については、権利者などの理解と協力を得ながら計画的に事業を推進します。

(3) 都市活動を支える拠点の整備

- 戸田市の中心拠点である市内3駅周辺については、駅周辺にふさわしい土地利用と拠点性の強化を図ります。
- 高齢者や障がい者、各施設管理者などの意見を踏まえた戸田市移動等円滑化促進方針や整備内容を定め、バリアフリーの連続性の確保を進めます。

(4) 将来を見据えた景観形成の推進

- 地域資源を活用した景観づくりに配慮しながら、都市づくりの方針を反映した第2次戸田市景観計画の景観形成方針、景観形成基準などによる景観誘導を図ります。

(5) 協働による取り組みの推進

- ◆ 地区の特性を活かしたまちづくりを推進するため、まちづくりに対する市民や事業者などの積極的な参画を促し、理解と協力を得ながら協働によるまちづくりを進めます。
- 市民・事業者に対する啓発活動を実施しながら、市民や事業者による自主的な景観形成活動の活性化を図るとともに、都市景観アドバイザー制度^{*}の適切な運用による良好な景観形成に努めます。

主要指標

指標名	指標説明	当初値	目標値	備考
計画的なまちの整備がされていると感じている市民の割合	計画的なまちの整備がされていると感じている市民の割合	23.3%	26.3%	【市民意識調査】平成26年度(2014年度)、平成30年度(2018年度)の平均値に改善
良好な景観が保たれていると感じている市民の割合	良好な景観が保たれていると感じている市民の割合	24.0%	26.2%	【市民意識調査】平成26年度(2014年度)、平成30年度(2018年度)の平均値に改善
道路や駅、公共施設のバリアフリーが確保されていると感じている市民の割合	道路や駅、公共施設のバリアフリーが確保されていると感じている市民の割合	30.1%	31.1%	【市民意識調査】平成26年度(2014年度)、平成30年度(2018年度)の平均値に改善

関連計画

- 第2次戸田市都市マスタープラン(改定版)
- 戸田市立地適正化計画
- 第2次戸田市景観計画
- 戸田市移動等円滑化促進方針
- 都市計画事業 新曽第一土地区画整理事業 事業計画
- 都市計画事業 新曽第二土地区画整理事業 事業計画
- 新曽中央地区 地区まちづくり協定
- 戸田市公共施設等総合管理計画及び戸田市公共施設再編プラン



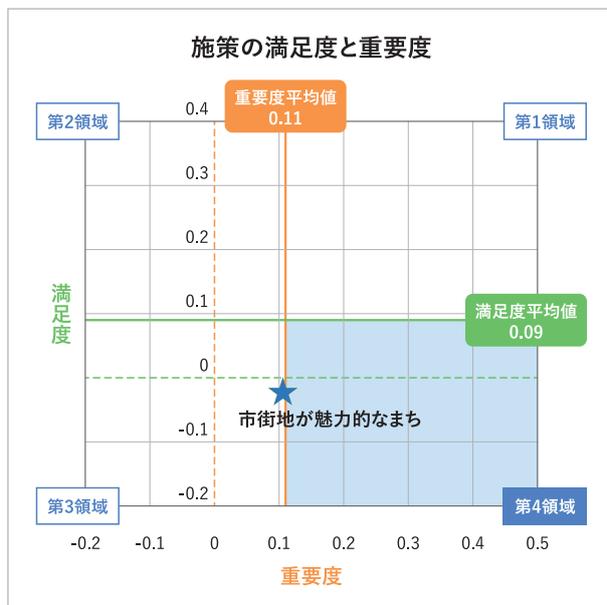
安心して生活できる住環境の充実

【施策の目的】

既存住宅ストックの適正管理・活用を促進するとともに、市営住宅を供給することにより、市民が安心して生活できる住環境を整備します。

現況と課題

- 近年、建物所有者の相続などに起因した空き家が増加しており、問題となっています。国は、平成27年(2015年)に空家等対策の推進に関する特別措置法を施行し、国・都道府県・市町村、所有者・管理者の責務及び空き家対策の必要性を示しました。
- 適切な管理が行われない空き家は、防災、防犯、環境、景観の阻害要因となるなど様々な問題を生じさせ、地域住民の生活環境に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- 戸田市では、都心近接の利便性の高さや土地区画整理事業[※]による宅地利用の増進を背景に、分譲マンションなどの集合住宅が増加しています。分譲マンションについては、区分所有者の高齢化に伴い、計画的な維持管理の主体となる管理組合の担い手が不足し、老朽化による資産価値の低下や周辺の住環境悪化を招く懸念が生じています。
- 市営住宅については、築後30年以上が経過し老朽化が進んでいるものがあるため、計画的に維持管理を進める必要があります。
- 市営住宅はセーフティネットとしての機能を有しており、住宅困窮者の受け皿として、福祉との連携が必要です。





取り組みの方針

(1) 空き家対策の推進

- 専門家団体や町会・自治会等と連携しながら、空き家の発生予防と活用促進(リノベーションなど)を図ることにより、管理不全な空き家の発生抑制につなげます。管理不全な空き家については、空き家所有者などによる適正化を促します。

(2) 分譲マンションなどの適正管理の促進

- 分譲マンションの適正管理を促していくため、専門家団体と連携を強化しながら、市内の分譲マンション実態調査を行います。また、分譲マンション管理組合などに対する周知・啓発を進めます。

(3) 市営住宅の適正な管理運営

- ◆ 老朽化が進みつつある市営住宅については、計画的な長寿命化を図ります。
- 福祉との連携を図りながら、住宅困窮者への支援を行います。

主要指標				
指標名	指標説明	当初値	目標値	備考
空き家件数	市内の空き家の件数	315件	315件以下	当初値以下を目指す
マンション相談件数	市内のマンション管理に関する相談件数	8件	28件	年4件を加算
市営住宅長寿命化計画進捗率	市営住宅長寿命化計画における長寿命化進捗率	62.5%	100%	戸田市市営住宅長寿命化計画に基づく進捗率

関連計画

- 戸田市空家等対策計画
- 戸田市市営住宅長寿命化計画
- 戸田市公共施設等総合管理計画及び戸田市公共施設再編プラン



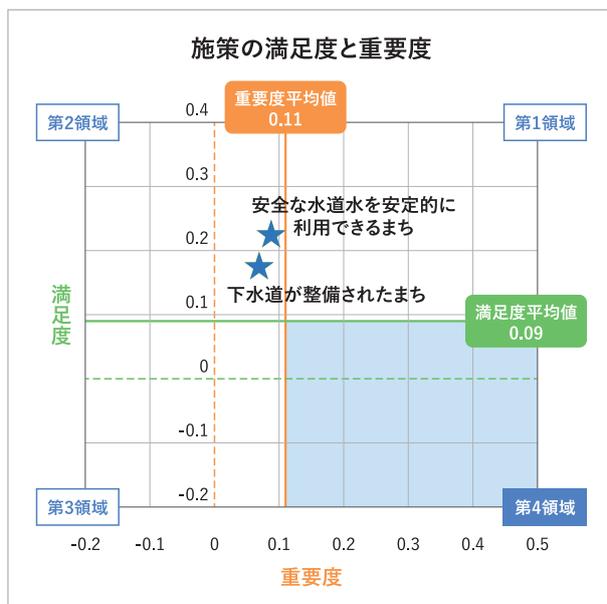
上下水道事業の効率的な運営・施設の充実

【施策の目的】

健全かつ効率的な上下水道事業運営を図るとともに、市民が安心して上下水道を利用できるよう、安定した水の供給と公共下水道を普及させます。

現況と課題

- 上下水道は、人々が清潔で快適な市民生活を営む上で重要な社会基盤です。市街地の拡大などに伴って全国的に整備が進められてきましたが、全国的に人口減少によって受益者が減少し、健全な事業運営に向けた課題が生じているほか、施設の老朽化なども問題となっています。
- 戸田市では当面、人口増加傾向を維持するものと予測されていますが、節水意識の向上や節水機器の普及により使用水量の減少が懸念されます。このため、水道事業の給水収益及び下水道事業の下水道使用料ともに横ばいで推移していくことが予想され、今後も、健全かつ効率的な上下水道事業運営を図っていく必要があります。
- 上水道については、高度経済成長時代に整備した水道施設が耐用年数を迎えており、水道管や浄水場施設の老朽化対策を進める必要があります。施設の耐震化については計画的に工事を進める必要があり、拠点となる浄水場から災害時の防災拠点や避難場所などの重要施設までを連絡する施設と管路の耐震化に取り組んでいます。
- 下水道については、汚水未整備地区の早期解消が求められており、公衆衛生の観点から早期に事業を推進していく必要があります。また、下水道事業の着手から約50年が経過し、耐用年数を迎える老朽管路についても計画的に更新する必要があります。





取り組みの方針

(1) 健全かつ効率的な上下水道事業の運営

- 水道事業・下水道事業ともにビジョンと経営計画を策定し、長期的な視野に立ち、計画的に事業運営を行います。

(2) 上水道施設の計画的な更新

- ★ 健全な事業運営に努めながら、水道施設の更新を計画的かつ効率的に推進します。また、過去の震災からの教訓をもとに、水道施設の耐震化を進めます。

(3) 下水道施設の計画的な整備

- ★ 汚水未整備地区の早期解消に向け、計画的かつ効率的に汚水処理施設の整備を進めます。また、老朽管路の更新については、管路内調査の結果を踏まえ、適切な更新工法を検討し、事業を進めます。

主要指標

指標名	指標説明	当初値	目標値	備考
水道料金回収率	給水にかかる費用のうち水道料金で回収する割合	95.0%	100%	戸田市水道ビジョン2014(改訂版)に基づく目標値
基幹管路の耐震化率	基幹管路(導水管、送水管及び配水本管)総延長のうち耐震化を実施した管路総延長の割合	72.3%	85.6%	戸田市水道ビジョン2014(改訂版)に基づく目標値
汚水整備率	下水道(汚水)の整備率	92.9%	96.7%	整備予定面積を加算

関連計画

- 戸田市水道ビジョン2014(改訂版)
- 戸田市下水道ビジョン
- 戸田市水道事業中期経営計画
- 戸田市下水道事業経営計画
- 戸田市下水道事業 アセットマネジメント基本計画
- 戸田市下水道事業 中・長期事業計画
- 荒川左岸南部流域関連戸田公共下水道事業計画
- 戸田市下水道ストックマネジメント計画
- 戸田市下水道総合地震対策計画



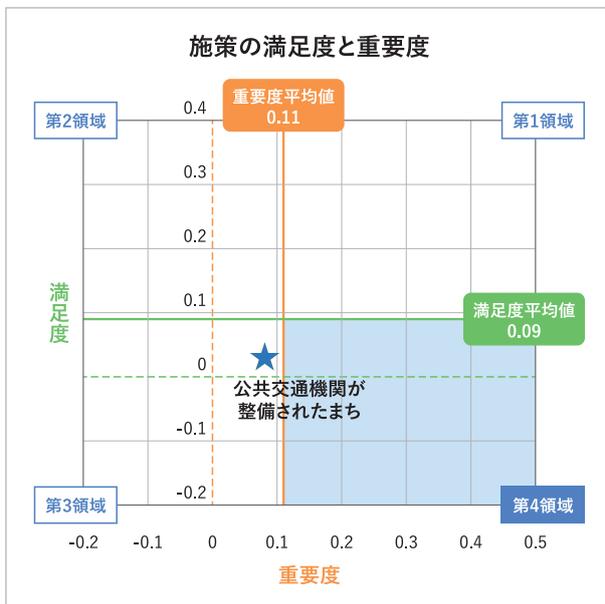
公共交通が利用しやすい環境の整備・推進

【施策の目的】

市内外を結ぶ公共交通の利便性を高め、市民の誰もが公共交通機関を利用して、快適に移動できる環境を整えます。

現況と課題

- 今後、人口の増加幅が減少に転じるとともに、高齢化が進み、市内の人口分布や生活形態の変化が交通の流れにも影響を及ぼすことが想定されるなか、公共交通の利便性の向上に向けた対応が求められています。
- 路線バスで補完しきれない交通不便地域の解消を目的として、戸田市ではtocoバス[※]を運行させてきました。路線バスとtocoバスは共に市内公共交通における重要な手段であり、両者が共存共栄していく必要があります。一方で、tocoバスの乗客数の増加が路線バスの乗客数の減少につながる側面があるほか、自転車の利用者の増加もバスの乗客数の減少要因となっており、安定的な公共交通網の維持に向けた対策が求められています。
- JR埼京線については、終電時間の後ろ倒しによる運行時間の延長やホームドアの設置、通勤・通学時の混雑の解消が課題となっています。
- 安全な通行区間を維持するため、放置自転車に対する継続的な対策が求められています。また、戸田市に関する新たな公共交通に関する情報を把握し、対策を講じていく必要があります。



埼玉県立南稜高等学校 協力・提供



取り組みの方針

(1) 安定的な地域公共交通網の確保

- tocoバスと路線バス乗客数のバランスを取るため、市民のニーズを把握した上で、各運行事業者と協議しつつ、バスの乗車状況や採算性を考慮し、対策を講じます。
- 路線バスとtocoバスとの共存関係を維持するとともに、路線の維持を図ります。

(2) 鉄道利用の利便性向上

- JR埼京線の利便性向上に向け、東日本旅客鉄道株式会社に対する働き掛けを継続的に行います。

(3) 駅前通行区間の維持

- 放置自転車の撤去を引き続き実施するとともに、自転車駐車を適切に管理運営することで、自転車の放置を防止します。

主要指標

指標名	指標説明	当初値	目標値	備考
公共交通機関の利便性向上の満足度	公共交通の利便性の向上に満足している市民の割合	28.3%	30.0%	【市民意識調査】平成26年度(2014年度)の値に改善
tocoバス利用人数	tocoバスの年間利用者数	367,996人	370,000人	平成30年度(2018年度)の値以上に改善
市内3駅駅前自転車駐車場の満車回数	駅前自転車駐車場の満車回数(一時利用)	0回	0回	誰もが自転車駐車場を使用できる状態を維持

関連計画

- 戸田市都市交通マスタープラン
- 戸田市交通安全計画

